



「0歳からの知育教育」を はじめましょう！

0歳だからって「何もできない」と思ったら大間違い！
あなたの目の前の赤ちゃんは、
感じています・聞こえています・見えています。
そして、その一瞬一瞬、育っているのです。
だからこそ、見逃さないでください。
今だからこそ、してあげられること。
「何かしてあげたい！」というあなたの気持ち。
その後の、脳や心の発達に大きな違いが出る、
それが「0歳からの知育教育」。
さあ、はじめませんか！
この本を手にした今が、
あなたと赤ちゃんにとって最高のタイミングなのです。

はじめに

～ 開発者からのメッセージ ～

このガイドブックのタイトルは、

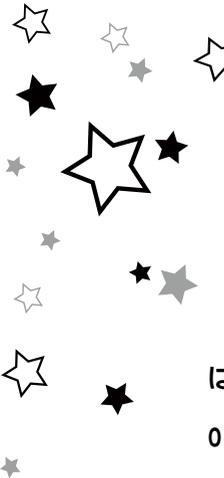
— 「**0歳からの知育教育**」をはじめましょう！— ですが、私は、みなさんに「早期教育」をしましょう！ と訴えたいわけではありません。

私は、「早期教育」について賛成も反対もしません。しかし、乳幼児に対して、特定分野における技能やスキルを集中的に高めるようなメソッドや、お受験などにおいて必要とされる立ち居振る舞いを叩き込むような「早期教育」については反対です。そうしたものを「早期教育」と呼ぶなら、私の提唱する「0歳からの知育教育」は、むしろそれとは逆の試みと言えるかもしれません。

私が、赤ちゃんのお母さんたちに訴えたいことは、「**知育という名の育児をしましょう！**」ということです。「知育という名の育児」…どうということだと思いますか？

実は、**親が子どもを育てること**と、子どもの知能を発達させて、能力形成を促してあげること（**知育教育**）は、同じ営みであると言えるのです。

0～3歳の子どもに「**知育教育**」を与えようと思うとき、お母さんや養育者には、特別な教育メソッドやプログラムは、必要ありません。0～3歳という時期は、言ってみれば**人間としての「土台」を作る時期**です。「心の土台」「体の土台」「知能の土台」人間の礎となるこの3つの土台は、0～3歳の時期に、お母さんとの毎日の暮らしの中で形成されます。その中で獲得した「安心や喜び」、「好奇心や探究心」、そして「発見や学び」が、これらの土台を形作るのです。こうして0～3歳の時期に作られた「土台」は、その子にとって一生ものとなるのです。



CONTENTS

はじめに	・・・ 4
0～1歳の知育って？	・・・ 8
0～1歳の発達と、してあげるべきこと	・・・ 10
発達心理学者たちから学ぶ	・・・ 11
「特別な体験」はじめの一步：「遊びの拠点」を作ろう	・・・ 14
このプレイジウムが白黒赤なわけ	・・・ 16
「パパ大豆の白黒赤トンネルプレイジウム」	・・・ 18
「自我のめばえ」を促す白黒赤ソフトミラー	・・・ 30
おわりに	・・・ 34

